

キャプテン☆長尾 冬季点検で安心安心!

松尾店長『さて長尾さん! 冬季点検実施しますよ!』

長尾さん『うむっ! 愛艇NEW太刀魚三世の為や! 安心航海は日頃のメンテナンスで!』

松尾店長『重要な整備や無理なメンテナンスはダメですよ! 不安があれば必ずプロに任せましょう!』

松尾店長『今回はエンジン特集です。もっと詳しく知りたい方は、ヤンマー便り【お知らせ欄】を

ご覧ください。お得な情報が出てますよ!』

①冷却水量の確認 (エンジンが冷えている状態)



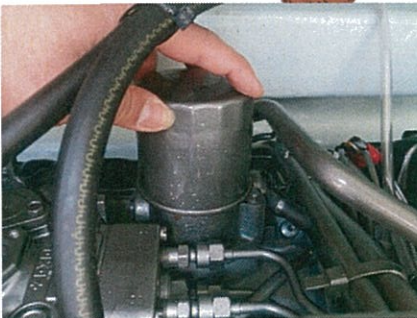
冷却水 (清水) はエンジン冷却に欠かせない、大切な物です。
交換時期の目安は
1年、または1000時間
古くなると、熱交換や防錆の能力が低下しますよ。
点検交換は、エンジンが冷えている状態で行ないましょう。
写真右はサブタンクです。エンジン内で熱膨張した清水はサブタンクへ移動してきます。
規定量あればOKです。

②エンジンオイルは重要ですよ!



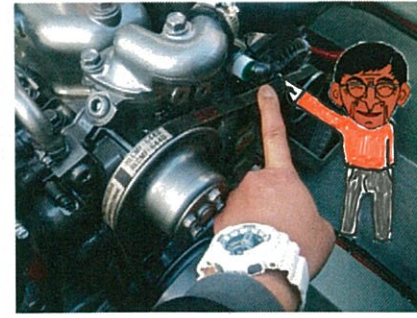
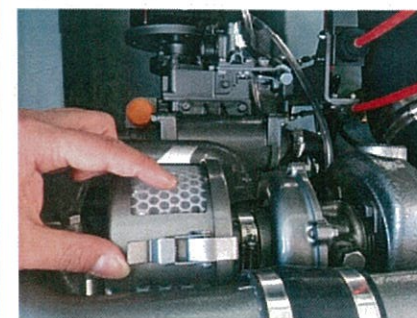
エンジンオイルは冷却水同様に重要な物です。
劣化や油量で重大事故となります。
オイル量の点検はゲージ先端のケガキで適正量あるか確認下さい。
交換時期の目安は
1年、または250時間
オイルの抜出しはゲージのパイプから抜けますが、交換は無理をせず、プロの整備士へ依頼されるほうが安心ですね。

③各フィルターの点検と交換



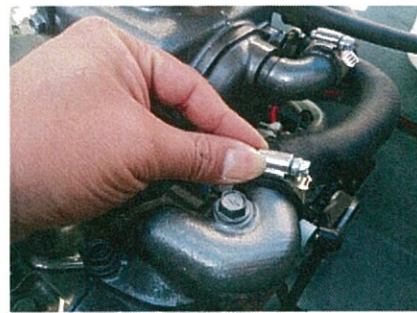
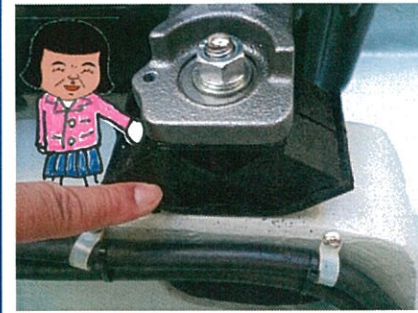
写真左は燃料フィルターですね。
下の白いキャップは油水分離の水抜き箇所です。
1ヶ月、または50時間毎に水の有無を確認し、フィルター本体の交換は1年、または500時間で交換です。
右のオイルフィルターは、オイル交換時に同時交換が理想です。
各フィルター交換も漏れなどの不安があれば、整備士さんへ依頼されるほうが安心です。

④タービン、Vベルト (エンジン停止時)



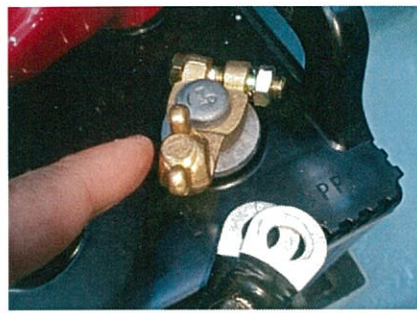
タービンのエアフィルターの点検。
汚れや目詰まりは吸気効率を下げますよ。
必ずエンジン停止時に外して洗浄して下さい。
スポンジタイプは交換して下さいね。
右の写真はVベルトですね。
オルタネーターや清水ポンプを駆動させる重要な部品です。
定期的に張り具合を確認しましょう。
指で押し (10kg) 1cmたわむ程度でOKです。

⑤防振ゴム、冷却水パイプ類



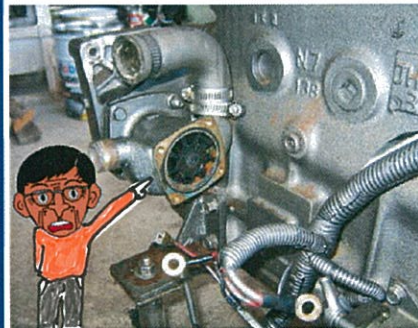
長尾艇は、まだ新艇なので大丈夫ですが、亀裂やヘタリがあれば要注意ですね。
写真右は冷却系統のゴムホースですね。
新艇から少し使うと、ゴムが硬くなったりアタリが付き始めます。
水漏れが発生しやすいので、バンドを増し締めすると安心ですね。

⑥バッテリー



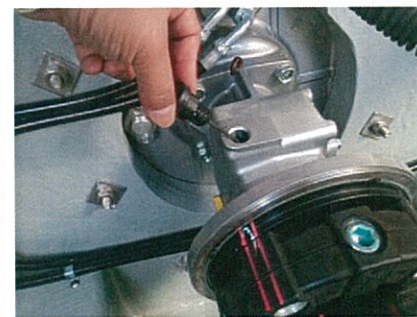
エンジン始動に欠かせません。
航海計器類を使用するにも欠かせません。
定期的に液量、比重の点検、端子の点検を実施しましょうね。
冬場はバッテリー端子を外しておくでバッテリーあがりを防げますね!
最近では、電動リールの活用、スラスターやエアコン搭載艇も増えています。
重要な点検個所の1つですよ。

⑦海水経路



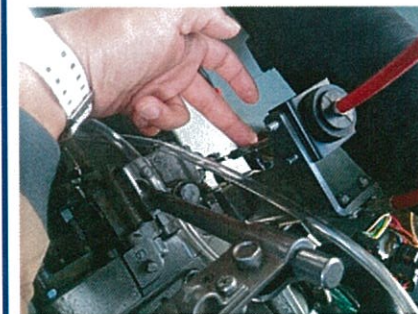
エンジン内の清水を冷却する為に、海水を清水クーラーへ導く必要があります。
左の写真が海水インペラです。
このインペラの羽根が痛むと、給水効率が低下してオーバーヒートします。
写真右は海水コシキですね。
組み付けが悪いと、エアかみ、水漏れが発生します。
どちらもプロの整備士さんへ依頼される方が安心ですね。交換時期は
1年毎の点検と4年、または1000時間で交換。

⑧クラッチ周辺



写真左は、クラッチオイルを点検補給する箇所ですね。
キャップとゲージが一体となっています。
作動油圧、潤滑、防錆などが主な作用です。
極端な汚れ方はしませんが、交換は必要です。
交換時期は
1年、または250時間となります。
右の写真は、ドライブ側のオイルです。
ラバープロテクション交換時の給油や状態の確認箇所ですね。

⑨各ワイヤー、ブーツの点検



作動用のワイヤーは前後進やアクセルの駆動に欠かせません。リモコンハンドルが重く感じ始めたら交換が必要ですね。
また船内から船外へワイヤーが出る場合写真右のようなブーツがセットされます。
これは海水流入を防ぎますので、破れの点検が必要ですね。
漂流の原因になりますので、早めの交換をオススメ致します。